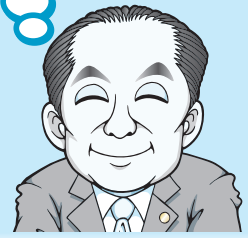


町長の一言



9・11とデビット君

ニューヨークの多発テロ事件から既に5年の歳月が経過して、9月11日には、現地で追悼の集会が開かれた様子が報道されています。特にこの事件では、犠牲者の中に消防士が含まれています。

1993年から3年間、私の家で外国の青少年を数人ずつホームステイで預かった事がありました。これは、東京の大学生たちが中心になった「ピースチャイルド東京」というボランティア団体が実施していたものです。広島原爆の日に世界の若者たちが、交流を深め平和について語り合い、また、そのために来日した若者の滞在期間を利用して、日本の生活を体験してもらうという趣旨に、私も賛同して引き受けたものでした。1994年の夏は、アメ

リカ(ニューヨーク、テニアン)、南アフリカからの3人の男子でしたが、その中に、ニューヨークの高校生でデビット君が居りました。彼は身長2m近い大男なので、うぐいすの里の遊具のバーに頭を打ったハプニング等も思い出しますが、その時の彼の将来の進路希望は、ニューヨークの消防士になるんだと言った事を、あのテロ事件が起きた時に思い出しました。ホームステイしてから12年経っています。デビット君が希望通り消防士になって活躍しているのか、また、9・11の事件に巻き込まれてはいないだろうか、それとも別の職業を選択しているのか等、その後の交流はありませんが、この事件の報道のあるたびに憂慮しています。

文芸くらぶ

俳句

稲の穂の水あけてある日の出かな
飯田 勇一
バンカーに猪の足跡今朝の秋
山崎 正行
人まばら美術の森の水澄めり
和田 範子
禅寺の裏道湿り草の花
飯村 昭子
口中に葡萄弾けて夜の海
森 静江
神代より湧くといふ水澄みにけり
鯉 淵 寿美恵
山粧ふ買ひ足す給具赤青黄
今瀬 多代美
あつさりと外国へ行く盆休み
飯村 愛子
奥の間をからりと開けし輝しぐれ
いそべ きよ
蕊光り蕊揺れにけり稲の花
田所 厚子
足音に鳴き止むちちろ夕厨
仲田 まつと
飛びとびに燃ゆる畦道曼珠沙華
高橋 芦江
休暇明けゴム風船の色鈍し
竹内 幸子
とりどりの秋果盛られて写生会
瀬谷 博子
稲の秋萬燈ともし叶かな
田口 勝元
鈴虫の鳴く声忙し夜更けにも
阿久津 はつみ
通り風ゆれる風鈴子猫じゃれ
岩下 美知野
やつと夏来たと思えば秋の風
市川 義子

短歌

空の蒼陽の眩しさに戸惑ひぬ長かりし雨上れる朝は
高堀 よしの
この病院で命終りし夫なりきそれには触れず友を見舞へり
佐川 あや
二千二百円増額の介護保険料に術なく追従なして納むる
杉山 みちこ
三十分長いながい刻さぎむ手術成功と先生の声
宮本 ふみ江
籠出でて文鳥が家内めぐるときわが前に小さき風を立たす
所 美恵子
丹精を込めて咲かせた花々に「ありがとう」と言いつつ夫は水やる
青柳 京子
「つづきたい」「老へり。よそう」と同窓会六十年目の決断つかず
山形 式妙
強き風も激しき雨も襲うなきわが里山の静かな住まい
藤原 千代
我が胸にかけ寄る女孫抱きとむ離りぬし日々愛しき込めて
渡辺 千紗子
働きと風貌備へし中田選手「人生は旅」とサツカー去りぬ
秋山 愛子
新妻となりたる吾娘は夕餉時味付け具合を問ふ電話掛け来
大森 久子
独り居の月とかたがりし縁先で風心地良き立秋の月
岩下 通子
友ときて殺生石へ登り見て千人像の教を尊し
富田 欽子
裏山でほろすけほうと鳴く声も闇夜にききぬひとり床に居て
土部 まき子
塩原の足湯につかりリフトから山一面のゆりを楽しむ
阿良山ウメノ

横綱に毅然と向かう稀勢の里鋭い攻めで見事金星

山口 栄

山畑の風にそよぎしソバの花心洗わる白さなりけり
鶴田 すが

草引きに追われぬ吾を笑うがに「のん平草」は土つかみゆる
薄井 ひろ

梅雨のはれ間の一日を咲きて夏椿音なく落ちぬ二つ三つ四つ
枝 不美

頼らるるを支へとなせるかの老いは今日も杖つきつ買物果たす
片見 和枝

つつましくうつむき咲ける「エゴ」の花淡紅の雫はつかに垂るる
川上 千代子

うすれゆく記憶の中によみがえる終戦を告ぐる玉音放送が
島 愛子

悠久の彼方へ誘ふ鍾乳洞終なき点滴の水の芸術
多田 志保子

どの指もふしくれたら曲がれば老いを勞り湯舟に伸ばす
坪井 きよ子

喃語にて答えるように為りしとつ妹は語る初孫のこと
萩谷 登喜子

今日も亦梅雨明けぬ空を見上げつつ梅干し干すが待ちたくたびれし
和知 美智子

台風は千葉県沖に逸れたるらし夕光の中筑波領が気高し
富田 佐智子

川柳

神代より続く稲穂が美しい
山本 隆 莊
山畑田人と猪との知恵くらべ
青木 新二郎
人の世の素晴らしさだけ伸ばしたい
仲田 こう
夏休み今日で終わるか孫忙し
富田 多蔵